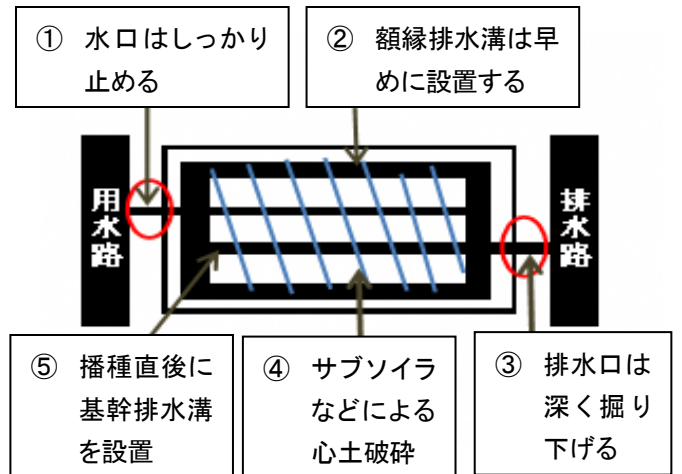


大麦の収量・品質向上のポイントは、初期生育の確保です！
排水対策等の基本技術の徹底で、適正苗立数を確保し、高収量・高品質な大麦を生産しましょう！

1 排水対策の徹底

・稲刈後、速やかに額縁排水溝を設置

- 稲刈後、額縁排水溝を設置し、確実に排水口へ連結しましょう。
- 砕土率を上げるために、耕起・播種前までに十分ほ場を乾かしましょう。



2 土づくり・基肥

・大麦はpH6.0～6.5が最適

- マグフミン（粒）は、**10a 当たり 100kg 以上**を耕起前に施用し、**pH 6.0～6.5**を確保しましょう。また、堆肥等有機物も積極的に施用しましょう。

○基肥は、

- ① 分施の場合、**基肥 555 で 10a 当たり 35～40 kg**を施用しましょう。
- ② 肥効調節型基肥の場合、**LP 大麦 48 号で 10a 当たり 45 kg 程度を基本に**、地力に応じて施用しましょう。

3 適正な播種

・播種は9月末～10月上旬を中心に

○種子消毒

雲形病等の発生を防ぐため、種子消毒は必ず行ってください。「ベンレートT水和剤 20」を、乾燥種子重量の0.5%湿粉衣（乾燥種子 10 kg 当たり 200mlの水を加え、薬剤 50 g を均一に混ぜる）する。

○播種作業

- ・播種は、必ずほ場が乾いた状態で行い、**耕起・播種・作溝の一連の作業は、1日で完了**させましょう。
- ・トラクターの速度は低速にし、砕土率60%以上を確保しましょう。
- ・雑草の発生が多いほ場では除草剤を的確に使用し、生育量を確保しましょう（表1）。



表1 雑草防除（ドリル播き限定）

除草剤名	使用量(10a 当たり)	使用時期
トレファノサイド粒剤 2.5	4～5 kg	播種後出芽前
トレファノサイド乳剤	200～300ml (希釈水量 100ℓ)	播種後出芽前

使用上の注意

- ・表面散播したほ場には使用しないでください。
- ・散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を控えましょう。

○播種量の目安

・播種時期・播種方法に応じた播種量で**目標苗立数を確保**しましょう（表2）。

・ドリル播きでは、深播きにすると出芽揃いが遅れ、分けつの発生率が低下します。

播種の深さは3 cm程度に設定してください。

表2 目標苗立数と播種量の目安

播種期	目標苗立数 (本/㎡)	播種量の目安(10a 当たり)	
		ドリル播き	表面散播
9月 25～30 日	140	6.0 kg	6.5 kg
10 月上旬	150	6.5 kg	7.0 kg
10 月中旬	200	8.5 kg	9.0 kg

○播種時の排水対策

- ・3～4 mに1本の割合で、幅 30 cm、深さ 20 cm以上の基幹排水溝を設置しましょう。
- ・また、成畦によってできた溝は、基幹排水溝や額縁排水溝に連結し、雨水が流れるように連結しましょう。

水稻や大豆の収穫・乾燥調製作業との競合が予想される場合は、大麦の播種が遅れないよう、事前に調整しましょう。